

俵野地区の紹介



網野町俵野(たわらの)地区は KTR 木津温泉より西方面に約 1kほど走ったところ。現在は橋小学校辺りより整備された国道で久美浜方面へ行きますが、その昔は今回紹介する俵野という集落を通過して久美浜(平田地区)へ向かったと云います。桜尾峠(現フルーツライン※図中赤線・緑線)がそれです。峠には「茶屋」などがあり久美浜への往来が賑わったと伝えられています。

その後、村内は大きな嫌案もなく穏やかに推移し、農業(果樹など)がもっぱら中心で丹後特有の織物を家業とするものは多くなく現在2~3戸ほどであると云います。

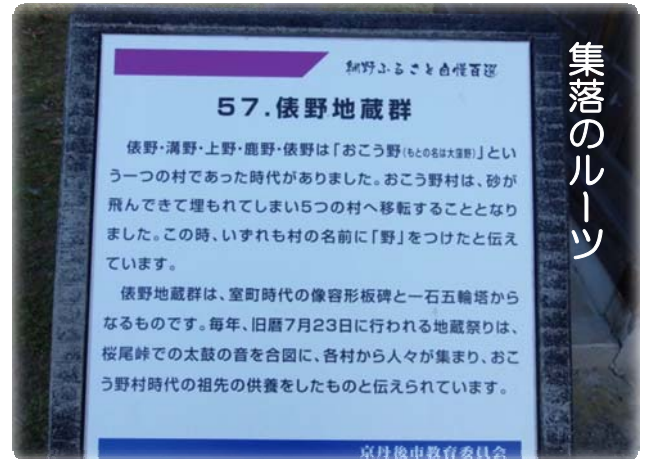
祭事については他地区と同じ時期に八柱神社における秋祭りが行われ、子供だんじりを10年程前より村内巡行で楽しんでいるということです。夏時期における地蔵盆では村内北東の丘にある多数の地蔵堂の前で小中学生による奉納相撲が行われています。

集落のルーツ

この地蔵堂の辺りには古におき賑いだ集落があった跡です。「おこう野」という集落ですがこの集落は周りの砂丘事情で幾たびの大風等により埋まってしまったという言い伝えがあり村民はここから様々な場所へ移動したと云います。この「俵野」もその村民たちであると伝えられてい

ます。

道というのは大変重要なもので、国道を中心にこの村に入ると特に村の近辺には水田などは広くなく感じます。前述の「おこう野」跡地より西方向、あるいはその小山の中腹には意外な広さの農地が目に入ります。特に砂丘地でありその水源には苦労されたのではとかがわかります。過去より梨の特産である果樹畑が斜面に沿って広がっています。



俵野地区

勝田池

ひっそりと遺る……

池



勝田池(かったいけ)は日本海の砂丘の谷間が締め切られてできた自然池で、昔からどんな大雨でも満水になったことがなく、また干天が続いても水底を見せたことがないと言い伝えられて、多くの伝説をもった池として知られている。昭和30年ごろにおき灌水施設をここに設置しました。以来、干害を克服することができました。



伝説

俵野地区の農道を小高い丘に沿って車を走らすと、草木の陰から顔を出す池があります。ここは伝説の遺る勝田池です。

その昔、大阪の鴻池に嫁入り前の美しい御嬢さんがおられ、ある日、丹後にどえらい男前の好きな人がおるからぜひそこに嫁ぎたいと言い出し家人を困らせていました。

そこで鴻池家では仕方なく娘が言うがままに立派な籠に乗せてお供をつけ、はるばると丹後のこの土地まで送って来ました。この池の付近は峠道になっているので、供人たちは籠を降ろして一休みしたのです。すると、御嬢さんが突然いなくなり供人が大声で呼んでも返事がなく、気が付くと池の水面で男女の泳ぐ姿が見られ、あっという間に姿が消え、しばらく経つと大蛇が池の上からこちらをにらんでおり、見る間に水中深く入ってしまったのです。そして二度と姿を現すことはなかったと云います。供人は御嬢さんが大蛇になってしまったと思い、あきらめて帰りました。その後、この池を「蛇の池」と称して人々は恐れて近づけなかったと云います。

故井上正一氏著作の「ふるさとのむかし」伝説と史話 より

